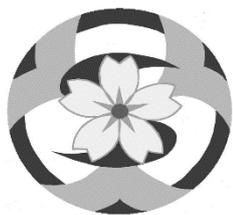


自ら学ぶ力 ・ 共に生きる心 ・ 心身の健康



青陵中だより

令和6年度 NO. 4

令和6年7月20日 発行



URL <http://schit.net/tama/jhseiryu/>

2学期に向けて主体的に取り組む夏休み

校長 岩崎 紀美子

いよいよ長期休業期間に入ります。今年の夏休みは 43 日間という非常に長期間となります。学校生活においては、1年生にとっては、小学校生活から中学校生活へと変化の大きい1学期間だったのではないのでしょうか。この長い休みをどのように過ごすか。3年生は目標とする進路に向かって進んでほしいと思います。1, 2年生は部活動や家庭学習、各家庭での役割分担を積極的に行って充実した夏季休業期間として下さい。

さて、今から5年前の2019年9月に開幕し、44日間の熱戦が繰り広げられた「ラグビーワールドカップ2019日本大会」。熱戦は観客に感動を与え、「ワンチーム」という言葉が年間流行語大賞にも選ばれました。この時の日本選手の活躍は素晴らしいものでしたが、それには布石がありました。それはその前回大会に当たる2015年のイングランド大会です。

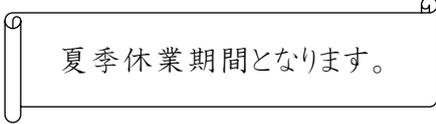
この大会で日本は強豪南アフリカを試合終了間際に逆転で破る大金星を挙げています。24年ぶりの勝利で日本は世界からも注目されました。その理由は勝ったことではなく、試合展開にあります。試合終了間際、日本は3点差で負けていました。そこで日本は、相手ゴール前でペナルティを得ます。最後のワンプレーとなります。選択肢は2つです。同点となるペナルティキック(3点)を選ぶか、それとも逆転をねらってスクラムからのトライ(5点)を選ぶかです。結果はスクラムからボールをつなぎ劇的な逆転トライによって勝利したのです。

この逆転トライの背景にあるものは何でしょうか。それは「主体性」にあったと言えます。実はこの時、日本代表のヘッドコーチの指示は、「ペナルティキックで同点をねらいなさい。」というものでした。しかし、選手の選択はスクラムからのトライをねらうというものでした。ヘッドコーチは試合前、リーチ・マイケル主将に判断は任せると言っていたそうです。リーチ・マイケル主将は「ワールドカップには勝ちに来たので、同点のペナルティゴールをねらうという考えはなかった。」と述べていました。

以前からリーチ・マイケル主将は「主体性」をチームのテーマに掲げ、ヘッドコーチが打ち出した計画を受動的ではなく、能動的に考え、共有するチームを目指してきました。「主体性」とは「自らの意思・判断によって、自ら責任をもって行動する態度や性質のこと」を言います。選手たちは自分たちで考え、判断し、共有しながら、ワールドカップに向けて、世界一厳しいと言われる練習を乗り越えてきました。そのことが自信となり、ワールドカップの試合においても彼らは主体性をもって自らの意志と判断で行動し、日本のラグビー史上に残る歴史的なトライにつなげたのです。

このことから学ぶことは、何かを成し遂げるとき、「自らの意志・判断によって、自ら責任をもって行動すること」が大切であるということです。私たちは自分一人の力で生きていくわけではありませんが、様々な

場面で、常に自分はどのように考えるのか、自分はどのように他者と関わりをもつのか、という当事者としての意識が必要です。2学期は最も長い学期であり、その分、様々なことに向き合うことができると思います。そこで学習や学校生活で経験する色々な活動、毎日の生活に当たっては、自分の意志・判断によって自ら責任をもって行動すること、つまり「主体性」をもって取り組むことを期待しています。



夏季休業期間となります。

- 夏季休業中は
- 1 心身ともに健康で安全に生活をしてください。
 - 2 家族や社会の一員として、互いを尊重し、集団生活や社会におけるきまりやルールに基づいて自ら判断し、行動してください。
 - 3 希望や意欲をもって物事に取り組んでください。

保護者の皆様、地域の皆様、学校関係者の皆様のお陰で今学期も無事に終えることができました。日々、素直で明るい生徒たちが一生懸命に学業や部活動等に取り組んでいる姿を見て非常に嬉しく思います。これもひとえに皆様方のお力添えの賜物だと思っております。

二学期も本校教職員全員で生徒の成長のために全力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いいたします。